

町民海外派遣団報告

～団員たちの体験レポート

Vol.1

次代を担う中学生に、国際社会に柔軟に対応できる「こころ」を育ててもらおうと第十一回緑町町民（中学生）海外派遣事業が今年も実施されました。

同派遣団は八月十三日から八月二十五日までの十三日間、オーストラリア・ケアンズで語学研修やホームステイなどを行い、現地の学生やホストファミリーとの交流を通して多くのことを感じ取ったようです。今月号と来月号では、こうした派遣団のオーストラリアでの体験を紹介します。



▲出発直前。ドキドキ、わくわく。

| | | | | | |
|------------|------------|------|-----------|------|------|
| 広田中学校3年生9名 | 木戸大輝 | 木戸和元 | 美佳早織 | 小島塔下 | 奈々大地 |
| | 木戸児玉 | 木戸井本 | 井本貴大 | 杭田 | 友希 |
| 随員2名 | 緑町国際交流協会理事 | | 伊達古川 | 節子和美 | |
| | 倭文中学校教諭 | | (敬称略、順不同) | | |

「オーストラリアでの経験」

広田中学校 木戸 大輝

僕は、今回のホームステイでいろいろなことを学びました。まず、ホームステイの初日は、言葉が通じなくて苦労しました。しかも、相手が言ったことも独特のなまりがあっ



▲ホームステイ先で日本料理を披露

オーストラリアに来たから知ることができたんだと思います。本当に、来て良かったと思います。また、来ることができますなら来ようと思っ

「海外派遣団に参加して」

広田中学校 小島 奈々

私たちは今回、オーストラリアでもとても良い時間を過ごせたと思う。

一日目、役場を出てバスに乗り、関西国際空港へ向かった。バスの中では、みんな楽しんで騒いでいたので、空港へ着くころには、疲れ果てていた。その後、飛行機に乗りケアンズへ。ケアンズ空港では朝の五時ごろなのに、けっこう人がいて、ほとんどが日本

部分がありました。デザインもいろいろあったので、いいなあと思いました。他にも裸足で街を歩いている人もいました。日本では、そんなことをしていると変な目で見られるけど、オーストラリアでは、それが普通でした。

オーストラリアで、特に困ったことが一つありました。それは、オーストラリア人は、白人、黒人、黄色人がいました。今回僕たちが困ったのは、黒人に会ったときでした。パジャマパーティーでハンバーガーを食べているときに、僕たちは、

「このレタス、にが」と言いました。すると、近くにいた黒人の女性が怒ってききました。それは、ニガという言葉は黒人に対する差別の言葉だったからです。僕たちは、そんなことも知らなかったで、なんで怒っているのか分かりませんでした。でも、その場から逃げました。

このように差別の言葉があったりして、未だに黒人を差別しているというのを思い知らされました。だから、今度からは気をつけようと思

には、英語研修の後、他国の学生たち（二十歳ぐらい）といっしょに、バレーボールをした。最終的に四人と友達になった。

九日目、ホストファミリーの人とスカイレールに乗った。めっちゃ怖かった。十日目のサヨナラパーティーではみんな浴衣でめちゃ泣いた。次の日、列車が止まって三時間ぐらい閉じ込められて、そうとうあせった。でも、この十三日間、楽しく過ごせてよかった。



▲英語の世界にどっぷり

「幸せを感じる最近」

広田中学校 児玉 弥生

私は初めてオーストラリア海外派遣に行けることになりました。最初はやっぱり海外なんていう実感はなかったけど、いざ来てみると、



▲初めてワニに触った感想は

いました。このことは自分にとっていい経験になったと思います。

「オーストラリアに行ってきた」

広田中学校 木戸 美佳

私たちは今回、海外研修としてオーストラリアに行かせていただきましたが、十三日間という短い期間の中で、多くのことを学びました。オーストラリアで本物の英語を聴くことができたし、ホームステイで国際交流もすることができました。

特に印象に残ったのが、ホームステイです。私と小島さんがホームステイさせてもらった所は、ナリーという一人暮らしの人の所でした。ナリーは大きな声でよく笑う、とて

「ああ。海外やなあ。」

と思いましたが。緊張の中ホストファミリーのミックと長女のジェシカが私たちを迎えに来てくれていました。私は本当に英語がしゃべれなくてすごく困っていたけど、会話を聞いたり、単語や表情を見ているとだいたい分かったのです。すごく嬉しかったです。やっぱり英語ってすごく重要だけどジェスチャーでほとんどが伝わるのですごく楽しいです。この家の構成は父がミックで母がフェイで、長男がジェイソンで次男がジョシユアで長女がジェシカです。たくさん家族に囲まれ、今、本当に幸せな生活を過ごしています。でもやっぱりいつかは帰らなくてはいけないのが本当にショックです。できるのなら一生ここ



▲ホストファミリーと浴衣で

もおもしろい人で、ナリーと出会えて本当に良かったと思っています。ホームステイをして、私はたくさんの人と出会うことができました。ナリーの友達やお父さんがすごく優しくしてくれました。今でも彼らのことを良く覚えています。八日間というすごく短い間だったけど、いろいろお世話をしてくれたことに感謝しています。もっと長い間、あの家にいたかったので、別れる時、つい泣いてしまいました。いつかまたオーストラリアに来て、ナリーたちに会いたいです。大人になったら、自分のお金でオーストラリアに来ようと思います。

朝は学校で勉強して、昼からはいろいろな所へ行きました。動物園に行ったり、海やプールに泳ぎに行ったりして、普段ではなかなか見ることもできないものをたくさん見ました。これもすごくいい体験だったと思います。

オーストラリアの人々はすごく気さくでいい人ばかりだと思います。街を歩いていても、日本語であいさつしてくれる人もいました。それも、



▲お城で有名なパロナパークで記念撮影

でみんなと住んでいたいです。この家に来てから一番楽しかったことは、全部って言いいたいけど、やっぱりこの家にある大きなプールであった出来事です。ジョシユアは最初はすごくおとなしかったのに、だんだん話をするうちにすごく仲良くなってきました。私がおもしろかったです。私が寒さのあまり出ようとしたら、プールの水をブッかけてきてびちょびちょ。あとは私が泳げないと言ったらミックに三層のプールに突き落とされておぼれ死にそうになりました。みんな、どこへ来てても最高だったというのが口ぐせですけど私は本当に心の底からこの家族を愛し、私の人生を変えてくれるらしい幸せをくれたと思います。他の人がこの作文を見た時「大げさ」とか「言いすぎ」って言うかもしれないけど、本当に最高に幸せです。